

トム・プロジェクト プロデュース

渡辺哲ひとりの芝居 校長失格

作・演出 水谷龍二

出演 渡辺哲

こんな校長がいたっていいじゃないか！ぼくとつな校長が定年前にやり残したことは…

— introduction —

風間杜夫ひとり芝居でひとり芝居の一つのジャンルを確立させたといっても過言ではない水谷龍二。今回は渡辺哲と新作ひとり芝居を創り上げる。2人はこれまでも18本もの作品を共にしてきた。ひとり芝居は1999年トム・プロジェクトプロデュース「麗しき三兄弟」、今井事務所公演「カクエイはかく語りき」につづき三度目となる。俳優の持って生まれた魅力を存分に引き出す作風の水谷が、今度は熟知の俳優・渡辺哲のどんな魅力を引き出してくれるのか乞うご期待！

ほとんど当て書きで芝居を書いてきた者にとって一人芝居は、その役者に惚れ込んでいけば案外楽しいものである。哲さんとは99年の「麗しき三兄弟」、06年の「カクエイはかく語りき」に続く、三本目の一人芝居。今回の役どころは中学の校長先生である。柔道一筋の青春、熱血教師時代は行き過ぎてで謹慎したことも度々、しかし持ち前のバイタリティと情熱で困難を乗り越えてきた。歳を重ね、いくらか温厚になったものの、本質は変わらない。生徒のためなら例え火の中水の中。どんな役を演じても強烈な個性が前面に出てくる哲さんだが、今回は繊細でナイーブな一面も出したいと思っている。

水谷龍二



渡辺哲プロフィール

愛知県常滑市出身。シェイクスピアシアター出身。全38作品中37作品に出演。退団後は数多くの舞台、映画、テレビで活躍する。強面で剛健な顔立ちをしているがコミカルな面も併せ持ち、多彩な役を演じることが出来る。多方面で引っ張りだこの俳優である。主な出演作品は映画「ミンボーの女」「HANA-BI」「木更津キャッツアイ」「冷たい熱帯魚」、テレビ「私の青空」「ブスの瞳に恋してる」「銭形平次」、舞台「星屑の町シリーズ」「大川わたり」「うそつき弥次郎」「黒革の手帖」「パッチギ」「第八回亀治郎の会」など多数。

